

科目名	担当教員名	学期
簿記特論 Practice in Bookkeeping	増子 敦仁	後期
目的	<p>本講義では、複式簿記に対する基本的理解を前提として、より高度な論点を取り上げ、簿記的な処理および財務諸表の表示方法等に関する知識やスキルの向上を目的とする。</p> <p>会計ビッグバン以降、会計諸基準や企業会計に関する法令の制定・改廃が相次ぎ、大きく変革を遂げているが、単に計算を行うだけでなく、並行してその背後にある考え方や理論的背景についても時間の許す限り考察し、議論を交わしたいと思う。</p>	
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. (複式) 簿記は「ビジネスの言語」であるといわれるように、実際に電卓を叩きながら繰り返し実践することが不可欠であると同時に、計算問題を解くことを通じて会計諸基準への理解が深まる。 2. 事前に範囲を指定するので、予習をしてくることを前提に授業を行う。 3. 該当範囲につき、あらかじめ配布したプリントの問題を実際に解いておき、講師が解答者を指名する。そこでは解答だけでなく、解答に至るプロセスを説明することを重視する。 4. 講師が正解・別解、別の解法および解説等を加え、さらに簿記的処理の根底に流れる会計上の原理・思考を検討するために、各種会計諸基準等を基にしながら質疑応答する方針で進めていく。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務会計諸分野に関する各種会計諸基準および企業会計に関する各種法令を理解し、かつ他人に説明できるようにすること。 2. 日商簿記検定1級(商業簿記・会計学)、あるいは公認会計士短答式試験(財務会計論)において出題されるレベルの問題に正確かつ迅速に対応できる技能を習得していること。 	
成績評価の基準と方法	<p>原則として最終理解度チェック(50%)および平常点(50%)を合算する。ただし、平常点については、提出物(必要に応じて学習状況を確認するために行う)や授業への参画度等を総合して評価する。成績は100点満点で計算するが、60点以上の履修者を合格とし、相対評価比率に合致するように、得点順にA、B、C、Dの評価を決定する。なお、不合格者(E評価)は、得点ベースで60点未満の者とする。</p>	
履修条件	日商簿記検定2級合格もしくはそれと同等以上	
授業計画		
第1週	実力確認チェック	
第2週	資産会計(その1) 現金・預金、手形、金銭債権	
第3週	資産会計(その2) 有価証券 ヘッジ会計 棚卸資産(一般商品販売)	
第4週	資産会計(その3) 有形固定資産(リース会計・減損会計を含む)	
第5週	資産会計(その4) 無形固定資産(のれん、ソフトウェアの会計) 研究開発費、繰延資産	
第6週	特殊商品販売(未着品販売、委託・受託販売、試用販売、割賦販売、予約販売)	

第7週	負債会計（社債、負債性引当金、資産除去債務、退職給付会計等）
第8週	税金の会計、税効果会計（個別財務諸表を前提）、工事契約
第9週	外貨換算会計（在外支店・在外子会社等の財務諸表項目の換算を除く）
第10週	純資産の会計（株主資本の増減、新株予約権）
第11週	株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書、財務諸表の修正
第12週	本支店会計（在外支店の財務諸表項目の換算を含む）、企業結合会計（合併、株式交換、株式移転等）
第13週	連結会計（その1）資本連結手続き全般
第14週	連結会計（その2）債権・債務の消去、未実現損益の控除、個別財務諸表の修正（退職給付会計など）、連結上の税効果会計、持分法 連結キャッシュ・フロー計算書、在外子会社等の財務諸表項目の換算
第15週	総合問題演習 最終理解度チェック
テキスト 参考書等	<p>【テキスト】 問題演習用のプリントは毎回配布する。 『会計法規集』中央経済社編（中央経済社）の最新版のもの</p> <p>【参考書】 『テキスト上級簿記（第5版）』渡部裕亘・北村敬子・石川鉄郎編著（中央経済社、2015年刊）</p>
その他 特記事項	電卓を毎回必ず持参すること。